

としよ 図書だより

2月号

岡本小学校 2021年2月3日発行



こんげつ せつぶん
今月は節分です。「節分」の字をよく見てください。「節が分かれる」と読めます。節とは季節のことです。季節が分かれる、つまり、冬と春の分かれ目、節目ということです。とはいっても、まだまだ寒いので、はや あたた 暖かくなりますように。

あたら ほん しょうかい 新しい本の紹介



『ばばあちゃんのマフラー』

さとうわきこ // 文・絵
ふゆ
冬のある日、ばばあちゃん、風邪をひいたお月さんにステキなマフラーをあげる約束をした。ところが、次々にいろんなできごとが起こり…



『これから戦場に向かいます』

山本美香 // 写真・文
アフガニスタン、イラク、チエチエン、コソボ、ウガンダなど世界各地の紛争地を取材、2012年、シリア内戦の取材中に銃弾に倒れた戦場ジャーナリスト・山本美香さんからのメッセージ。



『スズメのくらし』

平野伸明 // 文・写真
わたしたちにもっとも身近な鳥なのに、そのくらしぶりが知られていないスズメ。何を食べているのか？どこで眠るのか？スズメのことがよくわかる一冊。



『なまえのないねこ』

竹下文子 // 文 町田尚子 // 絵
ぼくはのらねこ。名前のないねこ。だれにも名前を呼んでもらったことがない。いいな、ぼくも名前がほしいな。でも、本当に欲しかったものは…



せつぶん まめ ～なぜ節分に豆をまくの？～

うぎょう せいかつ ちゅうしん いちねん いちがついついたち
農業が生活の中心だったむかし、1年のはじまりは1月1日ではなく、春のはじまり、立春の日が1年（1年の生活サイクル）のはじまりでした。立春の前日、2月3日節分は1年の最後になります。この日に、「福は内、鬼は外」と言って豆をまくことには、どんな意味があるのでしょうか。

むかしの人は、わざわざいや悪い病気は、鬼がもたらすものと考えました。そこで、1年の終わりである節分に、新しい年を無事にすごせるようにと、豆をまいて悪いものを追いはらう行事が行われました。豆には穀物の精霊が宿っていて、悪いものを追いはらう力があると信じられていました。

いま わる びょうき お
今、わざわざ・悪い病気・追いはらいたいものといえば、コロナウィルスですね。コロナ禍が少しでも早くおさまることを願って、「鬼は外～」

『こどもの行事しぜんと生活 2月のまき』小峰書店

『日本の年中行事 1月・2月』学研



げんざい としよいいんかい たの どくしょ
現在、図書委員会では、みなさんが楽しく読書ができるよう、便利に図書室を使ってもらえるよう、がんばって活動しています。どこにどんな本があるのか案内した図書室の地図や、図書委員がおすすめする本を紹介したカタログ、委員会だよりなどを作っています。どんなものができあがるか、楽しみにしててください。